

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で地域の皆さんと今までの生活が継続できるようにあるがままの生活を支えていくという理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時や毎月の勉強会時に理念の確認を行い全職員で共有して尊厳のある言葉かけ・態度等理念の実践に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム便りや家族会、運営推進会議を通しご家族や地域の人々に理念を理解していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様との散歩、行事を通して近所の方々とも会話が弾んでいる。又近所の方から花や野菜の差し入れも多く、日常的に交流がある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに出掛けたり、文化祭への地域の方々の招待、保育園児との交流会やボランティアの受入など積極的に行っている。自治会にも入り地域の掃除なども参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区長・民生委員・尚寿会の方々の参加いただいている運営推進会議を通していつでも意見・相談をしていただけるよう伝えている。認知症サポーターの話も行っている。	○	地域の認知症高齢者を支援する意味で認知症サポーター研修など受講開催し地域で支えられる支援の手助けを行っていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義や目的を理解し取り組んでいる。外部評価がある事で当施設も振り返る事ができサービスの向上につながっていると考えている。今までも評価頂き解決できる事があれば検討し改善につなげて来ている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容は、勿論ご家族からの意見参加者からの声を取り入れサービスの向上につながるように努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久留米市介護福祉サービス協議会・地域密着型交流会等に参加し事例発表をしたり質の向上に取り組んでいる。また市より紹介され施設見学に来られる同業者もある。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を理解する為に研修会に参加、当ホームでも勉強会を実施している。必要な方があればいつでも説明できるようにしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者も介護に従事しながら入居者の状況を観察している。職員の意識付けのため研修に参加し伝達している。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関しては、丁寧に説明をおこなうように心がけている。不安や疑問点があれば、いつでもお尋ねしてくださいと声掛けしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が意見・不満・苦情を表せる環境が できている。またそれが難しい入居者様に対 しても常に思いを察知する努力をし入居者本 意の運営を心掛けしている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月ご家族へお便りを発行したり面会時 には、そのつど状態を報告している。また面会 が難しいご家族には、電話連絡を行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに入り参加して頂 いている。外部の方々に日頃の不安・悩み・要 望等発信できるようにし運営に反映させてい る。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	全体会議において職員の意見や提案を述べる 機会が設けられ日常的に意見を業務改善に反 映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者様の状態に合わせてお袖や深夜業務の 時間帯を変更したり、出勤人数を調整したり 臨機応変に対応している。公休・夜勤希望 等・子育て・家族・仕事と両立できるよう配 慮している。	○	結婚・出産・仕事復帰されるような職場つく りを目指し、子育てしながらも勤務できる柔 軟な体制づくりをしていきたい。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当法人は、現場の状況を最優先と考えて頂 いている為現場が混乱しないように配慮頂 いている。ほとんど異動はおこなっていない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層で性別・年齢は問わない。自分の得意分野を発揮して専門の意識・技術を習得しレベルアップを目指す意識づけができるよう配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人全体でスライド・ビデオ等を利用して全体研修会をおこなっている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人全体研修・外部研修となるべく多くの職員が受講できるようにしている。新人研修をはじめ研修計画を作成しスキルアップできるように取り組んでいる。	○	外部研修への参加を実施・自己研修としては、情報を提供したり参加可能な勤務体制を支援している。委員会活動することで自らの学びの場所・スタッフへの研修提供し支援を行っている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス協議会・グループホーム協議会等同業者で交流の機会を持ち意見交換やサービスの向上に努めている。また気軽に相談できるグループホームもありお互い連絡を取り合い情報交換を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスに気を配り勤務時間にも気分転換できる休憩室を確保している。また親睦会を行いストレス軽減を図っている。	○	職員旅行の実施・リフレッシュ休暇・食事会の実施などストレス軽減に取り組んでいる。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人ひとりの個性や特技を活かし入居者様との関わりや活動に取り入れている。又資格取得に向けた支援を行い活かせる環境作りに勤めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活状況。生活歴の情報をしっかり知る為来ていただき慣れて頂いて不安の軽減に努めている。ゆっくり会話の時間を作る等して本人の思いが聞けるよう配慮している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、本人の情報を知る為、家族とよく話をし要望等を聞き、不安の軽減に努めている。又家族を交えて推進会議を行い意見を頂いている。意見は、全スタッフに伝達改善に努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス全般を全スタッフで話し合い本人に一番必要なサービスを把握する様努めている。内用は、ケアプラン等で家族に提供している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症デイサービス（共用型）を利用しながら入居に移行できる体制を築いている。ホームに慣れて頂くことを先決と考え本人のサービスを開始している。経過状況は、随時家族へ連絡し理解を得るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは入居者に声掛け、手伝い等をして頂いたり家族のようにお互い学び支えあう関係作りを築いている		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは家族の思いに寄り添いながら一緒に本人を支えていく関係作りを心がけている。ホームの行事に招待したり面会に来られた際要望、不安を聞き皆で支えている感じて頂けるよう努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の現在の状態を的確に伝え対応方法とそれに対する本人の様子等を説明しより理解出来る様努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会があれば、ゆっくり過ごせる環境を提供し行きたい場所がある時は、家族に連絡し連れて行ってもらったり、スタッフがわかる範囲なら連れて行くなどしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	皆さんと過ごして頂く様レクレーションや手伝い等に参加して頂木お互い声掛け合えるように努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事に招待したり季節ごとに便りを出す等継続して関わりをもてるように努めている。		

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より詳細に聴取し把握しながら本人のみならずご家族からも情報を得てアセスメントに記入しケアプランに活かしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等を書いて頂いたり他事業所より情報を得る等 本人のこれまでの暮らし方の把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子・心身の状態など何時でも把握できるように記録し皆で共有できるように努めている。又一人ひとりの暮らしに向き合い日々の変化に敏感に気づくよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の様子をよく観察し、課題やできることを見つけだし、全スタッフや家族、本人と相談し意見交換しながら、本人が安心して暮らせるよう計画を立案している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン期間中、本人に心身の変化が起きた場合は、プランの見直し・立て直しを行いその都度家族に説明を行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の生活の中で気付いた事やそれに対する対応や結果を随時個人記録に残すよう心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型認知症デイサービスを開始入居予定の方等受け入れを行っている。時間外の対応も行い家族が遅くなる場合等ホームでお迎えを待つ等細やかな対応にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行政区長・民生委員・尚寿会等運営推進会議に参加して頂きホームの様子を伝えている。地域の保育所との交流会や学生の体験学習など受け入れも行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要に応じ訪問看護等の利用も行っている。PT・音楽治療士によるサービスの協力を得支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議のメンバーとして参加して頂き情報の公表を行っている。又いろいろな情報や意見を頂きケアに生かしている。利用者についての相談もある。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を行っている。ご本人主体である為ご家族の要望に対応している。当ホームは、病院併設の為緊急時の医療連携は、充分である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	三潁地区の物忘れ外来が当ホーム併設病院に設置されている為常時相談できる体制にあり受診支援もできる。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに常勤の看護師がいる。訪問看護ステーションとの連携もあり気軽に相談しながら入居者様の健康管理などの支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院された場合常時面会に行き本人・家族に安心して頂ける様に配慮している。病院・家族との情報交換を行うよう努めている。ここ一年入院された方はいない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院併設の為医療・かかりつけ医との連携を保ちご家族の希望に応じている。又訪問看護ステーションとも連携も出来る事を説明し、希望に応じることが出来る体制にあると説明を行っている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設病院・かかりつけ医・看護職員・訪問看護ステーションとして支援できる体制にある。ホームから自宅で終末期を迎えられる体制にあることも説明を行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族や関係者から情報を頂き出来るだけ本人の居心地のよい場所となるように心がけている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー・個人情報などについては、当法人より研修を受講 全職員に意識づけを行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の関わりの中で決めつけず充分説明自分であるべく決めれるように配慮している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせ支援している。起床・朝食が早い方・就寝が早い方・遅い方各々個人対応しその人らしく過ごせるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類等は、その都度本人と一緒に選んだり好まれる色や柄を把握し一人ひとりの個性や好みを大切にしながらおしゃれを心がけている。ご家族と定期的に行きつけの美容室に行かれる方もある。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け等入居者様と一緒にやっている。季節感を味わえるよう旬の物を多く取り入れたり行事食を取り入れることで楽しんで頂いている。食べたい物・好みの物を尋ね献立に入れるように又一緒におやつ作り等も行っている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を把握しお茶だけでなく数種類の飲み物を準備し本人のその時の気分や好まれる物を自分で選択できるようにしている。ドリンクメニューを作り喫茶店のように選んでもらうこともある。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人に合わせて排泄チェック表・対応方法を作成・使用しながら排泄パターンの把握をし声掛け誘導することで失敗を防ぎパットやリハビリパンツ使用の軽減に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴出来るようにしている。入浴剤を使用したり温泉気分を味わえるようにしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベットを好まれない方は、畳で休まれたり入居者様のその日の状態・体調等によって常時見守りが必要な場合は、和室で休んでいただいたりと臨機応変に対応している。居室に電動ベットを持ち込まれている方もある。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味・得意な事を把握し新聞を読んだり・音楽活動に参加したり・絵を描いたり と個人に合わせた楽しみを取り入れられるようにしている。調理の手伝いし食器洗い洗濯物干しなど毎日の日課となり役割をもたれている方もある。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ち管理されている方もある。希望があれば一緒に買い物に行き 自分で好きな物を購入される方もある。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ等を多く取り入れ外に出る事で気分転換を図っている。ドライブは、入居者様に行きたい場所を尋ね個々の希望に添えるようにしている。又定期的にバスハイクを行っている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に応じて買い物や自宅への外出を個別に行っている。ご家族にも協力を得て外出や外食・外泊等を行っている方もある。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望があればいつでも掛けれる様に対応している。暑中見舞い・年賀状等入居者様からご家族や姉妹へ書いたり交流を大切にしている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は、特に設けていない為いつでも訪問頂けるようにしている。居室やホールでお茶を飲んだり談話を楽しんだりゆっくり過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し勉強会・外部研修にも参加し全職員へ意識づけを行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は、施錠せずいつでも出入り出来る様にしている。夜間は、警備会社にもパトロールを依頼し安全管理を行っている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は、職員同士気配りしながら行っている。法人とも連携をとり認知症で帰って来れない方等情報を共有している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を見ながら 危険が生じてきた場合には、ご家族にも十分な説明を行い納得して頂いたうえでホームで預かり管理している。又包丁やはさみ等注意の必要な物品は、目に付かない引き出しや戸棚に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全管理委員会があり定期的に勉強会を行っている。事故報告書を記入し原因を分析し今後の対応方法についてカンファレンスを行い全員で共有し事故防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急講習やAEDの講習を受けている。又酸素・吸引器等の緊急時の対応についても看護師より指導を受けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。定期的に入居者様を交え避難訓練を行っている。又消火器や通報装置の使用方法的指導も受けている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会の際最近の様子・状態を報告説明した上で今後考えられる問題を説明して理解を得るようにしている。生活の制限が最小限ですむようケア内容を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・週1回の診察により異常の早期発見に努めている。異常時には、看護師により伝達ノートにて対応し情報を共有出来る様にしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についてのマニュアルがありいつでも見られるようにしてあり薬の変更時は、薬じょうにて確認し服薬支援に努めている。臨時薬や薬の変更があった時は、業務日誌に記入し毎朝申し送りをしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の把握・調整する事で予防に努めている。食物繊維の多い食品を取り入れたり・体操・身体を動かす事に努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケア・おやつ時のうがい・義歯洗浄剤による消毒を行っている。上手く出来ない方には、その都度介助し清潔保持に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をその都度記入し把握できるようにしている。食事が入らないときは、個人にあわせ好まれる物を別メニューで提供したりお茶以外にコーヒーや紅茶・ポカリ等常時準備し気分や状態で選んでいただき提供できるようにしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり定期的な勉強会を実施している。手洗い・うがいの徹底を行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理器具は、每晚消毒をし衛生管理を行っている。魚や卵等は、必要時に配達して貰っている。他食材は、一日毎に必要な分だけ購入し長く置かない・無駄にならないように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、施錠せずいつでも出入りできるようにしている。玄関周りには、花を植えたり近隣の人から頂いた花を生けたり親しみやすい玄関周りを工夫している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月・七夕・お月見等入居者様と一緒に飾りつけを行ったり四季折々の花や植物を取り入れる事により季節感を感じる事が出来るようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見たり、仲良しの入居者様同士で談笑したりされている。畳を好まれる方は、和室で昼寝をしたり座椅子やコタツを使用し足を伸ばしたり絵を描いたりと自由に過ごされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具家電やなじみの物を持ち込んだり、写真や好きな花・人形を飾ったり本人様の好みや個性を尊重し安心できる雰囲気と居心地のよい空間作りに配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定時での換気を行い、見やすいところに温度計・湿度計を設置しこまめに確認している。エアコンだけでなく扇風機や加湿器等も準備し状況に応じて使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーで必要に応じ手すりの設置を行っている。車椅子利用者が多い為移動しやすい様な家具の配置や歩行者の邪魔にならない様車椅子の移動箇所を決めたり安全面を考慮し環境整備を行っている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所は、大きく分かりやすく表示している。居室にも分かりやすく目印をつけている方もある。食器洗いや調理・洗濯物干し・たたみ等日頃からしていた事を行い自立支援を行っている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出て日光浴やお茶を飲んだり出来るようテーブルや椅子を設置している。又毎日一緒にベランダで洗濯物を干す事が日課となっている。玄関には、花を植え、水遣りをしたり観賞したりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっている所でもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までも、これからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に取り組んでいます。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心出来ます。職員も母体の内部研修、また外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護(共用型)も開設しています。住み替えのダメージも少なく馴染みの関係を作りながら地域で暮らす事を大切に地域に根ざしたホームを目指し取り組んでいます。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で地域の皆さんと今までの生活が継続できるようにあるがままの生活を支えていくという理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時や毎月の勉強会時に理念の確認を行い全職員で共有して尊厳のある言葉かけ・態度等理念の実践に取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム便りや家族会、運営推進会議を通しご家族や地域の人々に理念を理解していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者様との散歩、行事を通して近所の方々とも会話が弾んでいる。又近所の方から花や野菜の差し入れも多く、日常的に交流がある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに出掛けたり、文化祭への地域の方々の招待、保育園児との交流会やボランティアの受入など積極的に行っている。自治会にも入り地域の掃除なども参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	区長・民生委員・尚寿会の方々の参加いただいている運営推進会議を通していつでも意見・相談をしていただけるよう伝えている。認知症サポーターの話しも行っている。	○	地域の認知症高齢者を支援する意味で認知症サポーター研修など受講開催し地域で支えられる支援の手助けを行っていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義や目的を理解し取り組んでいる。外部評価がある事で当施設も振り返る事ができサービスの向上につながっていると考えている。今までも評価頂き解決できる事があれば検討し改善につなげて来ている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容は、勿論ご家族からの意見参加者からの声を取り入れサービスの向上につながるように努めている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	久留米市介護福祉サービス協議会・地域密着型交流会等に参加し事例発表をしたり質の向上に取り組んでいる。また市より紹介され施設見学に来られる同業者もある。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を理解する為に研修会に参加、当ホームでも勉強会を実施している。必要な方があればいつでも説明できるようにしている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者も介護に従事しながら入居者の状況を観察している。職員の意識付けのため研修に参加し伝達している。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に関しては、丁寧に説明をおこなうように心がけている。不安や疑問点があれば、いつでもお尋ねしてくださいと声掛けしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様が意見・不満・苦情を表せる環境ができています。またそれが難しい入居者様に対しても常に思いを察知する努力をし入居者本意の運営を心掛けています。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ご家族へお便りを発行したり面会時には、そのつど状態を報告しています。また面会が難しいご家族には、電話連絡を行っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに入り参加して頂いている。外部の方々に日頃の不安・悩み・要望等発信できるようにし運営に反映させている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議において職員の意見や提案を述べる機会が設けられ日常的に意見を業務改善に反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の状態に合わせてお袖や深夜業務の時間帯を変更したり、出勤人数を調整したり臨機応変に対応しています。公休・夜勤希望等・子育て・家族・仕事と両立できるよう配慮しています。	○	結婚・出産・仕事復帰されるような職場づくりを目指し、子育てしながらも勤務できる柔軟な体制づくりをしていきたい。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当法人は、現場の状況を最優先と考えて頂いている為現場が混乱しないように配慮頂いている。ほとんど異動はおこなっていない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層で性別・年齢は問わない。自分の得意分野を発揮して専門の意識・技術を習得しレベルアップを目指す意識づけができるよう配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当法人全体でスライド・ビデオ等を利用して全体研修会をおこなっている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当法人全体研修・外部研修となるべく多くの職員が受講できるようにしている。新人研修をはじめ研修計画を作成しスキルアップできるように取り組んでいる。	○	外部研修への参加を実施・自己研修としては、情報を提供したり参加可能な勤務体制を支援している。委員会活動することで自らの学びの場所・スタッフへの研修提供し支援を行っている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス協議会・グループホーム協議会等同業者で交流の機会を持ち意見交換やサービスの向上に努めている。また気軽に相談できるグループホームもありお互い連絡を取り合い情報交換を行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスに気を配り勤務時間にも気分転換できる休憩室を確保している。また親睦会を行いストレス軽減を図っている。	○	職員旅行の実施・リフレッシュ休暇・食事会の実施などストレス軽減に取り組んでいる。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ一人ひとりの個性や特技を活かし入居者様との関わりや活動に取り入れている。又資格取得に向けた支援を行い活かせる環境作りに勤めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活状況。生活歴の情報をしっかり知る為来ていただき慣れて頂いて不安の軽減に努めている。ゆっくり会話の時間を作る等して本人の思いが聞けるよう配慮している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、本人の情報を知る為、家族とよく話をし要望等を聞き、不安の軽減に努めている。又家族を交えて推進会議を行い意見を頂いている。意見は、全スタッフに伝達改善に努めている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス全般を全スタッフで話し合い本人に一番必要なサービスを把握する様努めている。内用は、ケアプラン等で家族に提供している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症デイサービス（共用型）を利用しながら入居に移行できる体制を築いている。ホームに慣れて頂くことを先決と考え本人のサービスを開始している。経過状況は、随時家族へ連絡し理解を得るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは入居者に声掛け、手伝い等をして頂いたり家族のようにお互い学び支えあう関係作りを築いている		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは家族の思いに寄り添いながら一緒に本人を支えていく関係作りを心がけている。ホームの行事に招待したり面会に来られた際要望、不安を聞き皆で支えている感じて頂けるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の現在の状態を的確に伝え対応方法とそれに対する本人の様子等を説明しより理解出来る様努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会があれば、ゆっくり過ごせる環境を提供し行きたい場所がある時は、家族に連絡し連れて行ってもらったり、スタッフがわかる範囲なら連れて行くなどしている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	皆さんと過ごして頂く様レクレーションや手伝い等に参加して頂木お互い声掛け合えるように努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事に招待したり季節ごとに便りを出す等継続して関わりをもてるように努めている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時より詳細に聴取し把握しながら本人のみならずご家族からも情報を得てアセスメントに記入しケアプランに活かしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴等を書いて頂いたり他事業所より情報を得る等 本人のこれまでの暮らし方の把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子・心身の状態など何時でも把握できるように記録し皆で共有できるように努めている。又一人ひとりの暮らしに向き合い日々の変化に敏感に気づくよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の様子をよく観察し、課題やできることを見つけだし、全スタッフや家族、本人と相談し意見交換しながら、本人が安心して暮らせるよう計画を立案している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン期間中、本人に心身の変化が起きた場合は、プランの見直し・立て直しを行いその都度家族に説明を行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の生活の中で気付いた事やそれに対する対応や結果を随時個人記録に残すよう心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型認知症デイサービスを開始入居予定の方等受け入れを行っている。時間外の対応も行い家族が遅くなる場合等ホームでお迎えを待つ等細やかな対応にも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行政区長・民生委員・尚寿会等運営推進会議に参加して頂きホームの様子を伝えている。地域の保育所との交流会や学生の体験学習など受け入れも行なっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の必要に応じ訪問看護等の利用も行っている。PT・音楽治療士によるサービスの協力を得支援している。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には、運営推進会議のメンバーとして参加して頂き情報の公表を行っている。又いろいろな情報や意見を頂きケアに生かしている。利用者についての相談もある。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を行っている。ご本人主体である為ご家族の要望に対応している。当ホームは、病院併設の為緊急時の医療連携は、充分である。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	三潁地区の物忘れ外来が当ホーム併設病院に設置されている為常時相談できる体制にあり受診支援もできる。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに常勤の看護師がいる。訪問看護ステーションとの連携もあり気軽に相談しながら入居者様の健康管理などの支援を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院された場合常時面会に行き本人・家族に安心して頂ける様に配慮している。病院・家族との情報交換を行うよう努めている。ここ一年入院された方はいない。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病院併設の為医療・かかりつけ医との連携を保ちご家族の希望に応じている。又訪問看護ステーションとも連携も出来る事を説明し、希望に応じることが出来る体制にあると説明を行っている。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設病院・かかりつけ医・看護職員・訪問看護ステーションとして支援できる体制にある。ホームから自宅で終末期を迎えられる体制にあることも説明を行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族や関係者から情報を頂き出来るだけ本人の居心地のよい場所となるように心がけている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー・個人情報などについては、当法人より研修を受講 全職員に意識づけを行っている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃の関わりの中で決めつけず充分説明自分でなるべく決めれるように配慮している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせ支援している。起床・朝食が早い方・就寝が早い方・遅い方各々個人対応しその人らしく過ごせるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類等は、その都度本人と一緒に選んだり好まれる色や柄を把握し一人ひとりの個性や好みを大切にしながらおしゃれを心がけている。ご家族と定期的に行きつけの美容室に行かれる方もある。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや盛り付け等入居者様と一緒にやっている。季節感を味わえるよう旬の物を多く取り入れたり行事食を取り入れることで楽しんで頂いている。食べたい物・好みの物を尋ね献立に入れるように又一緒におやつ作り等も行っている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を把握しお茶だけでなく数種類の飲み物を準備し本人のその時の気分や好まれる物を自分で選択できるようにしている。ドリンクメニューを作り喫茶店のように選んでもらうこともある。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人に合わせて排泄チェック表・対応方法を作成・使用しながら排泄パターンの把握をし声掛け誘導することで失敗を防ぎパットやリハビリパンツ使用の軽減に努めている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴出来るようにしている。入浴剤を使用したり温泉気分を味わえるようにしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベットを好まれない方は、畳で休まれたり入居者様のその日の状態・体調等によって常時見守りが必要な場合は、和室で休んでいただいたりと臨機応変に対応している。居室に電動ベットを持ち込まれている方もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味・得意な事を把握し新聞を読んだり・音楽活動に参加したり・絵を描いたり と個人に合わせた楽しみを取り入れられるようにしている。調理の手伝いし食器洗い洗濯物干しなど毎日の日課となり役割をもたれている方もある。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ち管理されている方もある。希望があれば一緒に買い物に行き 自分で好きな物を購入される方もある。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ等を多く取り入れ外に出る事で気分転換を図っている。ドライブは、入居者様に行きたい場所を尋ね個々の希望に添えるようにしている。又定期的にバスハイクを行っている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に応じて買い物や自宅への外出を個別に行っている。ご家族にも協力を得て外出や外食・外泊等を行っている方もある。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望があればいつでも掛けれる様に対応している。暑中見舞い・年賀状等入居者様からご家族や姉妹へ書いたり交流を大切にしている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は、特に設けていない為いつでも訪問頂けるようにしている。居室やホールでお茶を飲んだり談話を楽しんだりゆっくり過ごせるようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し勉強会・外部研修にも参加し全職員へ意識づけを行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は、施錠せずいつでも出入り出来る様にしている。夜間は、警備会社にもパトロールを依頼し安全管理を行っている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認は、職員同士気配りしながら行っている。法人とも連携をとり認知症で帰って来れない方等情報を共有している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を見ながら 危険が生じてきた場合には、ご家族にも十分な説明を行い納得して頂いたうえでホームで預かり管理している。又包丁やはさみ等注意の必要な物品は、目に付かない引き出しや戸棚に保管している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全管理委員会があり定期的に勉強会を行っている。事故報告書を記入し原因を分析し今後の対応方法についてカンファレンスを行い全員で共有し事故防止に努めている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急講習やAEDの講習を受けている。又酸素・吸引器等の緊急時の対応についても看護師より指導を受けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。定期的に入居者様を交え避難訓練を行っている。又消火器や通報装置の使用方法的指導も受けている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会の際最近の様子・状態を報告説明した上で今後考えられる問題を説明して理解を得るようにしている。生活の制限が最小限ですむようケア内容を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・週1回の診察により異常の早期発見に努めている。異常時には、看護師により伝達ノートにて対応し情報を共有出来る様にしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についてのマニュアルがありいつでも見られるようにしてあり薬の変更時は、薬じょうにて確認し服薬支援に努めている。臨時薬や薬の変更があった時は、業務日誌に記入し毎朝申し送りをしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の把握・調整する事で予防に努めている。食物繊維の多い食品を取り入れたり・体操・身体を動かす事に努めている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケア・おやつ時のうがい・義歯洗浄剤による消毒を行っている。上手く出来ない方には、その都度介助し清潔保持に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量をその都度記入し把握できるようにしている。食事が入らないときは、個人にあわせ好まれる物を別メニューで提供したりお茶以外にコーヒーや紅茶・ポカリ等常時準備し気分や状態で選んでいただき提供できるようにしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがあり定期的な勉強会を実施している。手洗い・うがいの徹底を行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・調理器具は、每晚消毒をし衛生管理を行っている。魚や卵等は、必要時に配達して貰っている。他食材は、一日毎に必要な分だけ購入し長く置かない・無駄にならないように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、施錠せずいつでも出入りできるようにしている。玄関周りには、花を植えたり近隣の人から頂いた花を生けたり親しみやすい玄関周りを工夫している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月・七夕・お月見等入居者様と一緒に飾りつけを行ったり四季折々の花や植物を取り入れる事により季節感を感じる事が出来るようにしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見たり、仲良しの入居者様同士で談笑したりされている。畳を好まれる方は、和室で昼寝をしたり座椅子やコタツを使用し足を伸ばしたり絵を描いたりと自由に過ごされている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具家電やなじみの物を持ち込んだり、写真や好きな花・人形を飾ったり本人様の好みや個性を尊重し安心できる雰囲気と居心地のよい空間作りに配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定時での換気を行い、見やすいところに温度計・湿度計を設置しこまめに確認している。エアコンだけでなく扇風機や加湿器等も準備し状況に応じて使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーで必要に応じ手すりの設置を行っている。車椅子利用者が多い為移動しやすい様な家具の配置や歩行者の邪魔にならない様車椅子の移動箇所を決めたり安全面を考慮し環境整備を行っている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所は、大きく分かりやすく表示している。居室にも分かりやすく目印をつけている方もある。食器洗いや調理・洗濯物干し・たたみ等日頃からしていた事を行い自立支援を行っている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出て日光浴やお茶を飲んだり出来るようテーブルや椅子を設置している。又毎日一緒にベランダで洗濯物を干す事が日課となっている。玄関には、花を植え、水遣りをしたり観賞したりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは、公園の一角にあります。リビングから見える十連公園景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっている所でもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までも、これからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に取り組んでいます。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心出来ます。職員も母体の内部研修、また外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護(共用型)も開設しています。住み替えのダメージも少なく馴染みの関係を作りながら地域で暮らす事を大切に地域に根ざしたホームを目指し取り組んでいます。